

2026年10月23日



2027年3月期 中間期 決算説明資料

東京製鐵株式会社
(東証プライム：5423)

1

2027年3月期 中間期 決算報告

2

2027年3月期 業績予想

3

株主還元について

4

参考情報

2027年3月期 中間期実績 (2026年4月～9月)

- ・売上高:1,504億円、営業利益:△35億円
- ・製品出荷数量:146万t(うち国内120万t、輸出26万t)
- ・当7－9月期においては、製品出荷単価が想定どおり上昇したことに加え、主原料である鉄スクラップの 購入価格が想定を下回ったことにより、計画に比べ営業利益が改善いたしました。
- ・また、資産の売却を進めた結果、中間純利益につきましても計画に比べ改善いたしました。

2027年3月期 通期予想

- ・売上高:3,260億円、営業利益:10億円(前年比△86.2%)
- ・既に実施した価格改定が出荷単価に反映され、通期で営業利益の黒字化を見込んでおります。



(当社の取組)

- ・製品需給動向、原料事情の変化に対し迅速かつ柔軟に対応できる体制の強化
- ・原材料使用量の削減など、全社を挙げての一層のコスト削減に取り組めます。

1

2027年3月期 中間期 決算報告

2027年3月期 中間期 実績総括

P4

- ・当7－9月期においては、製品出荷単価が想定どおり上昇したことに加え、主原料である鉄スクラップの購入価格が想定を下回ったことにより、計画に比べ営業利益が改善いたしました。
- ・また、資産の売却を進めた結果、中間純利益につきましても計画に比べ改善いたしました。

単位:億円

	2026年3月期実績			2027年3月期			
	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期	上期予想 (7/17公表)
売上高	738	600	1,338	729	774	1,504	1,550
営業利益	47	12	60	△23	△12	△35	△40
経常利益	53	16	69	△17	△12	△29	△30
当期純利益	37	8	45	18	5	23	10

製品出荷数量の推移

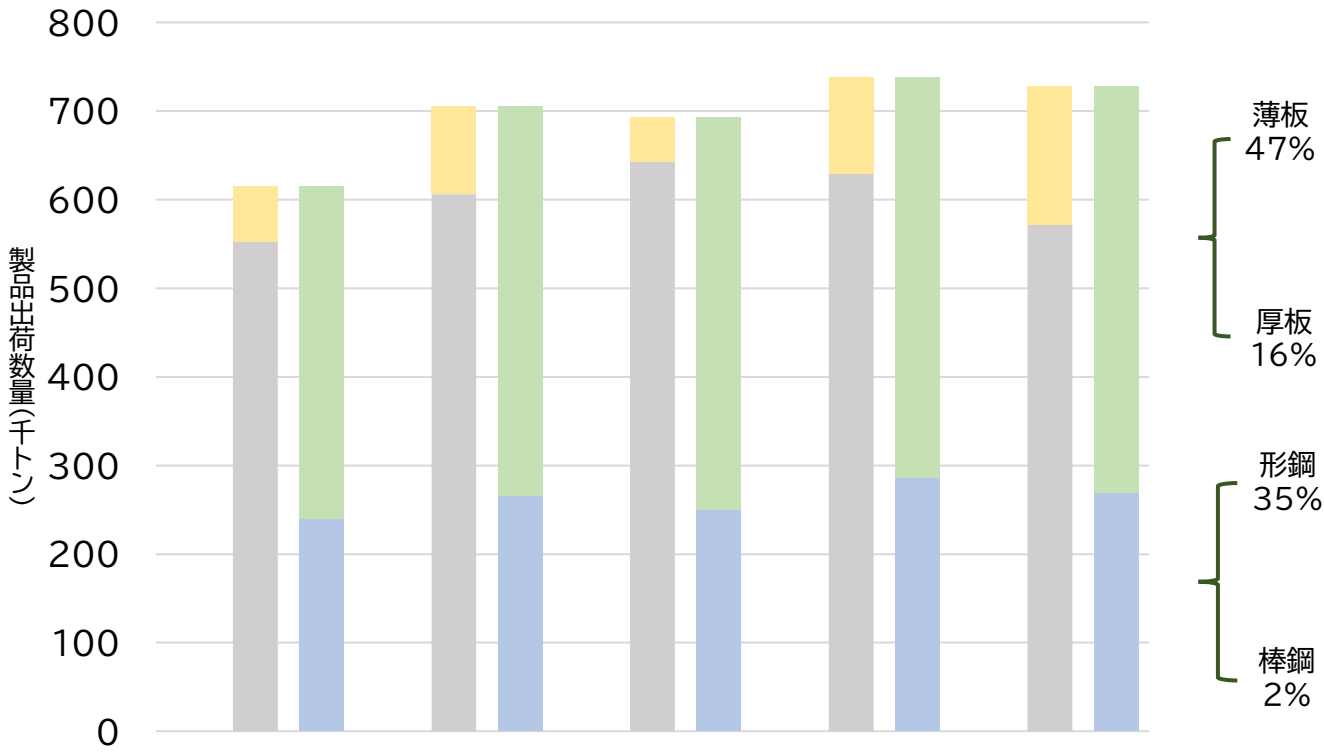
P5



製品出荷数量(国内・輸出)および粗鋼生産量・鋼材生産高の推移

	FY25.2Q	FY25.3Q	FY25.4Q	FY26.1Q	FY26.2Q
国内 (千トン)	553	606	643	629	572
販売単価 (千円)	95.8	93.8	93.2	97.1	104.1
輸出 (千トン)	62	99	50	109	156
販売単価 (千円)	88.7	89.4	86.1	95.3	103.9
合計 (千トン)	615	705	694	739	729
販売単価 (千円)	95.1	93.2	92.7	96.8	104.1
粗鋼生産量 (千トン)	653	809	756	838	772
鋼材生産高 (千トン)	596	755	679	767	725

製品の国内・輸出比率 および 品種構成

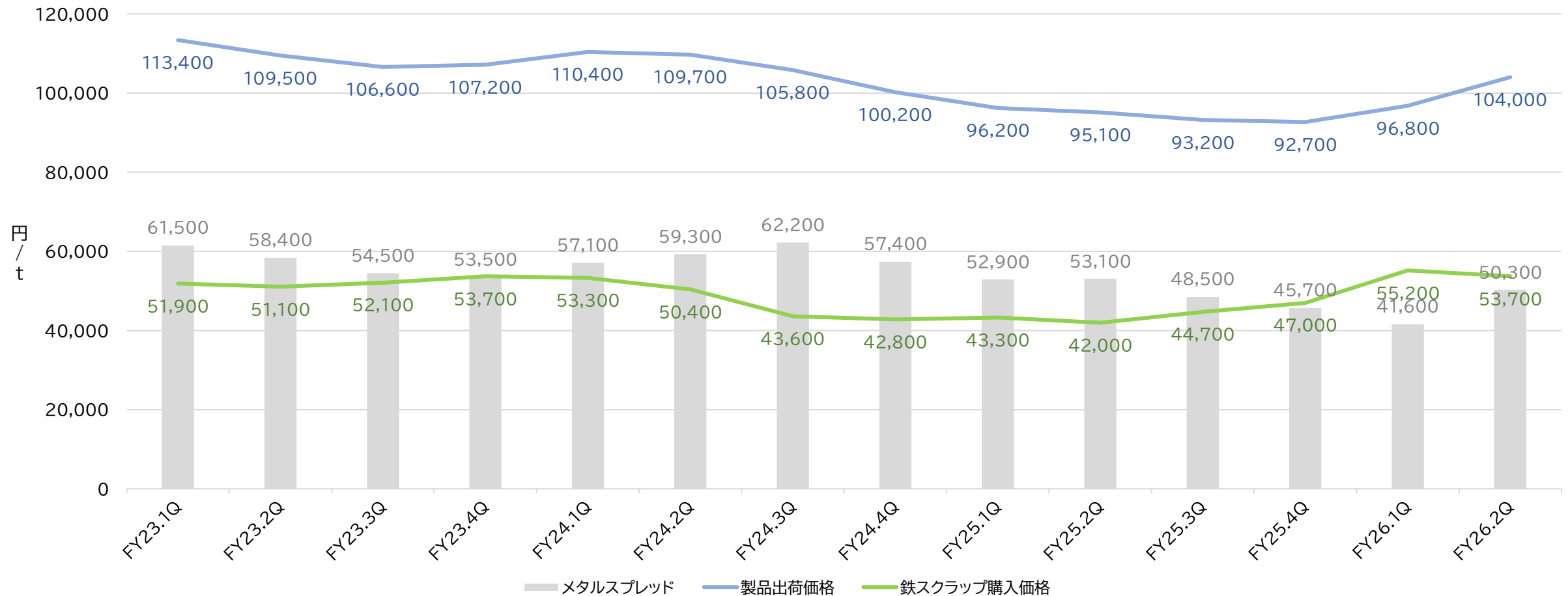


	FY25.2Q	FY25.3Q	FY25.4Q	FY26.1Q	FY26.2Q
輸出 (左軸・オレンジ)	10	14	7	15	22
国内(左軸・灰)	90	86	93	85	78
鋼板(右軸・緑)	61	62	64	61	63
条鋼(右軸・青)	39	38	36	39	37

製品出荷価格・鉄スクラップ購入価格・メタルスプレッドの推移

P 6

当2Qは、製品出荷価格が当1Q比で約7,200円上昇し、鉄スクラップ購入価格は約1,500円下落したため、メタルスプレッドは約8,700円の拡大となった。

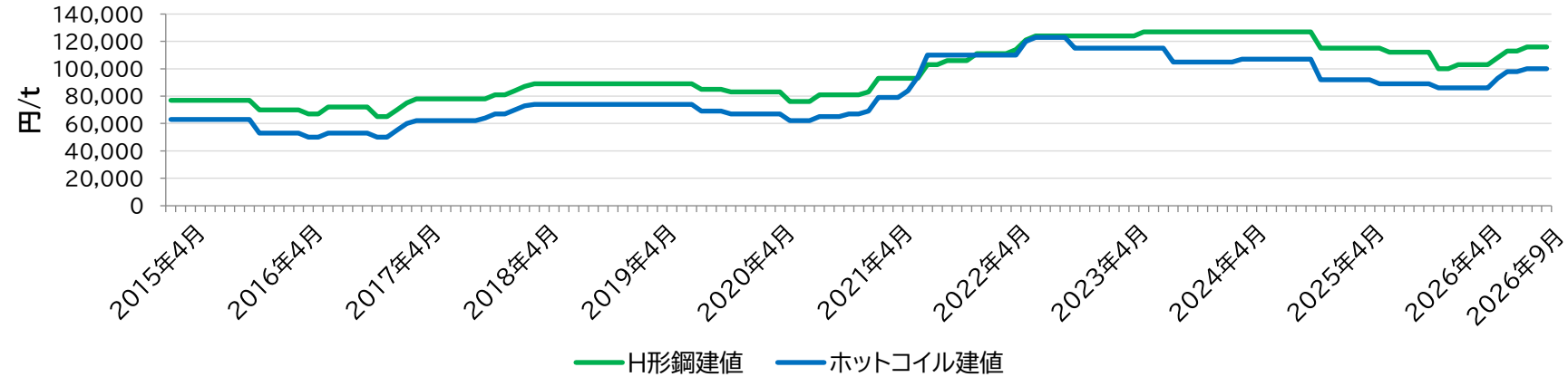


※鉄スクラップ購入価格とは、該当の四半期において使用した鉄スクラップの平均購入単価を指します。

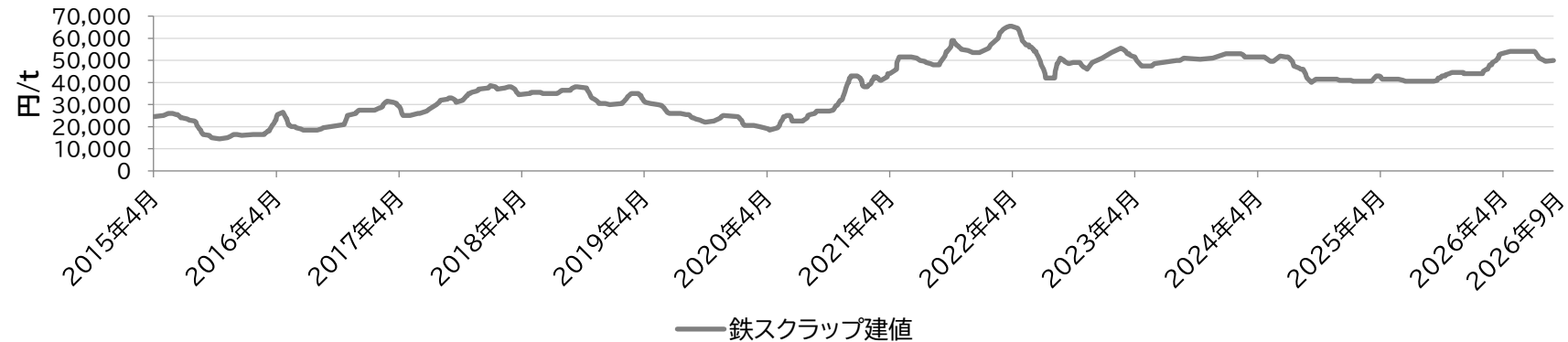
製品（ホットコイル・H形鋼）・鉄スクラップ[°]（田原・陸上特級）当社建値推移

P 7

ホットコイル・H形鋼 当社建値推移



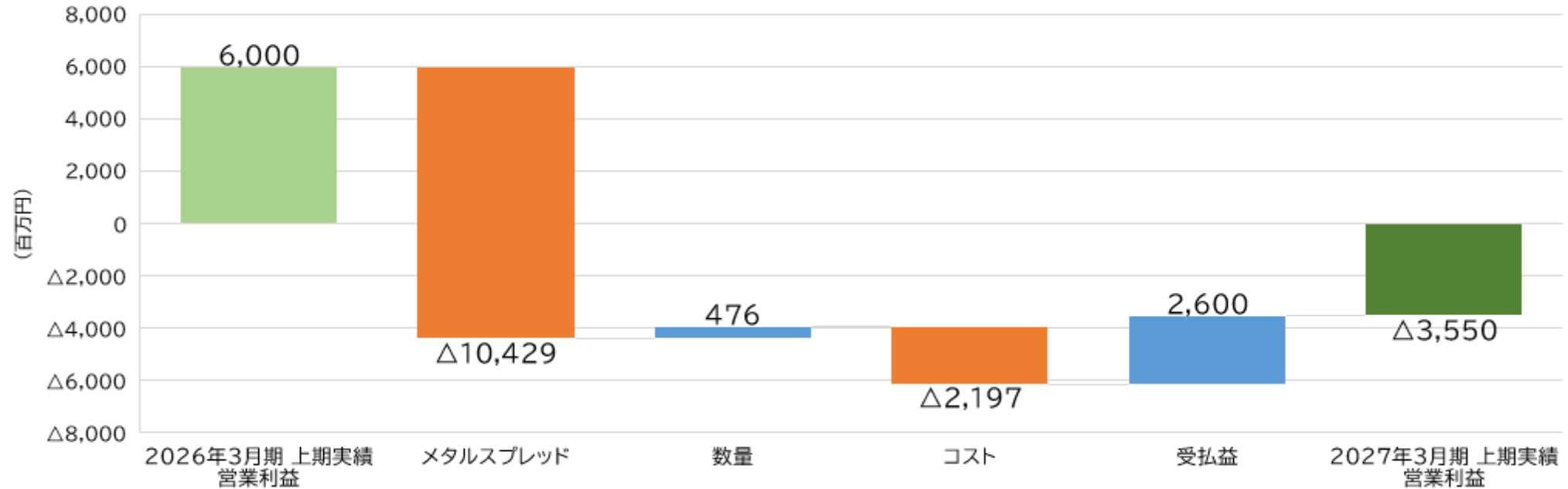
鉄スクラップ 当社建値（田原・陸上特級）推移



営業利益増減要因

P 8

2026年3月期 上期実績 → 2027年3月期 上期実績



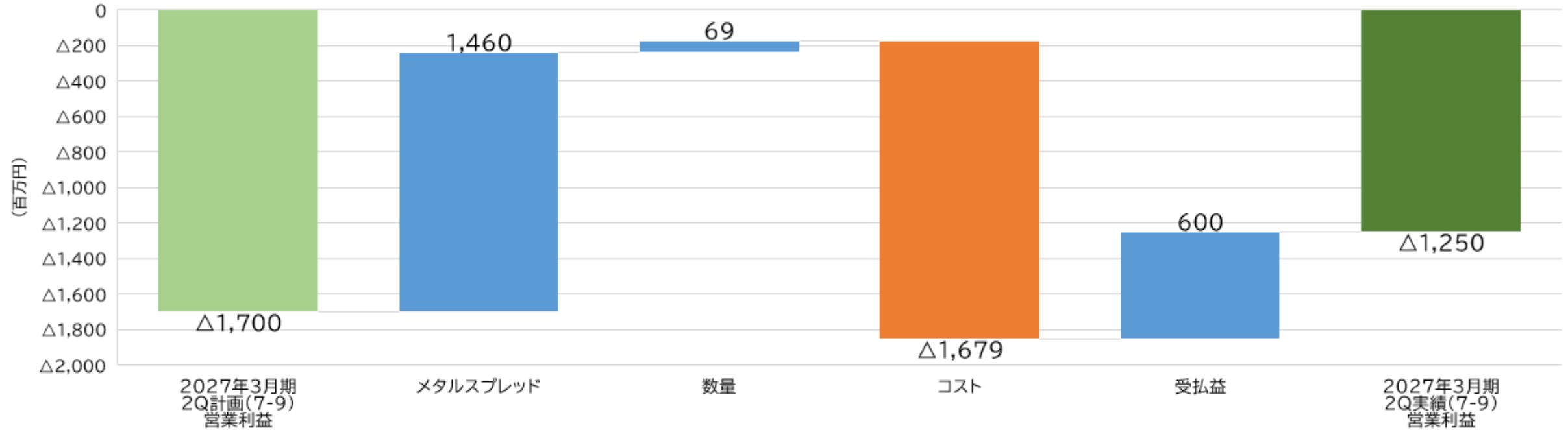
	2026年3月期 上期実績	2027年3月期 上期実績	比較
数量(t)	1,361,000	1,469,000	108,000
売上単価(円/t)	95,700	100,400	4,700
スクラップ単価(円/t)	42,700	54,500	11,800
スプレッド(円/t)	53,000	45,900	Δ7,100
営業利益(百万円)	6,000	Δ3,550	Δ9,550

※営業利益は数値を丸めています(以下同)。

営業利益増減要因

P9

2027年3月期 2Q計画(7-9) → 2027年3月期 2Q実績(7-9)

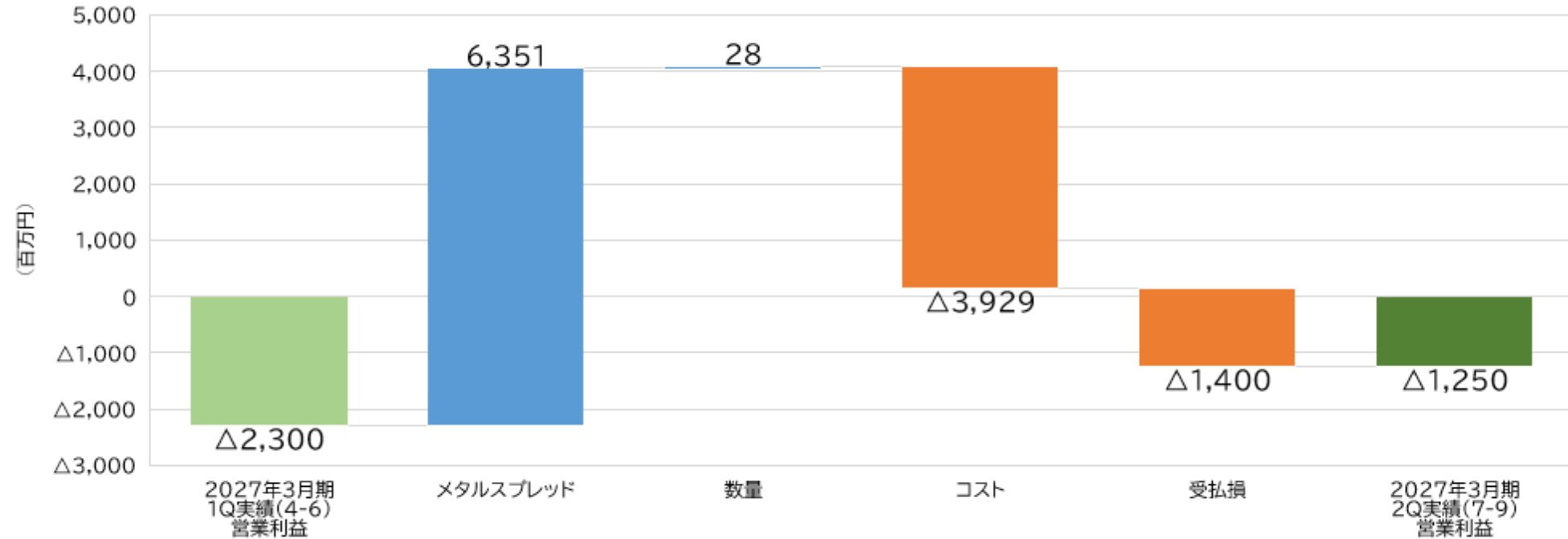


	2027年3月期 2Q計画(7-9)	2027年3月期 2Q実績(7-9)	比較
数量(t)	761,000	730,000	△31,000
売上単価(円/t)	104,000	104,000	0
スクラップ単価(円/t)	55,700	53,700	△2,000
スプレッド(円/t)	48,300	50,300	2,000
営業利益(百万円)	△1,700	△1,250	450

営業利益増減要因

P 10

2027年3月期 1Q実績(4-6) → 2027年3月期 2Q実績(7-9)



	2027年3月期 1Q実績(4-6)	2027年3月期 2Q実績(7-9)	比較
数量(t)	739,000	730,000	△9,000
売上単価(円/t)	96,800	104,000	7,200
スクラップ単価(円/t)	55,200	53,700	△1,500
スプレッド(円/t)	41,600	50,300	8,700
営業利益(百万円)	△2,300	△1,250	1,050

2

2027年3月期 業績予想

2027年3月期 業績予想

P 12



・既に実施した価格改定が出荷単価に反映され、通期で営業利益の黒字化を見込んでおります。

(当社の取組)

- ・製品需給動向、原料事情の変化に対し迅速かつ柔軟に対応できる体制の強化
- ・原材料使用量の削減など、全社を挙げての一層のコスト削減に取り組みます。

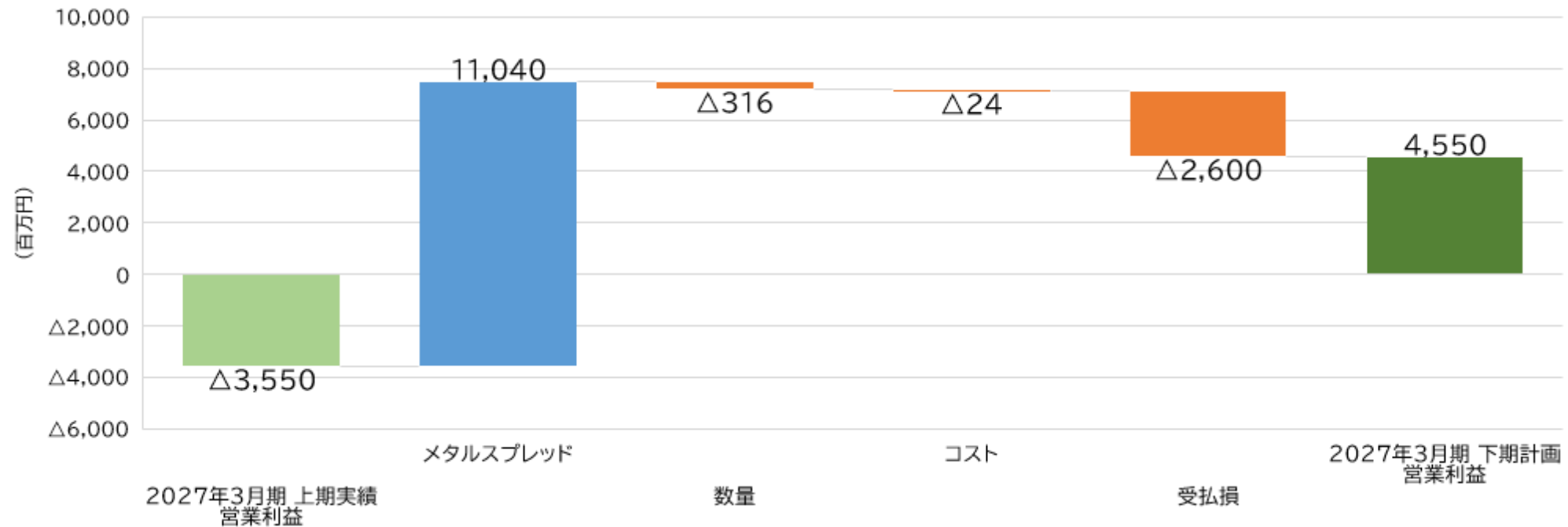
単位:億円

	2026年3月期実績		2027年3月期			
			実績	10/23 公表	7/17 公表	
	上期	通期	上期	通期予想	上期予想	通期予想
売上高	1,338	2,680	1,504	3,260	1,550	3,150
営業利益	60	72	△35	10	△40	△40
経常利益	69	86	△29	20	△30	△25
当期純利益	45	115	23	70	10	10

営業利益増減要因

P 13

2027年3月期 上期実績 → 2027年3月期 下期計画

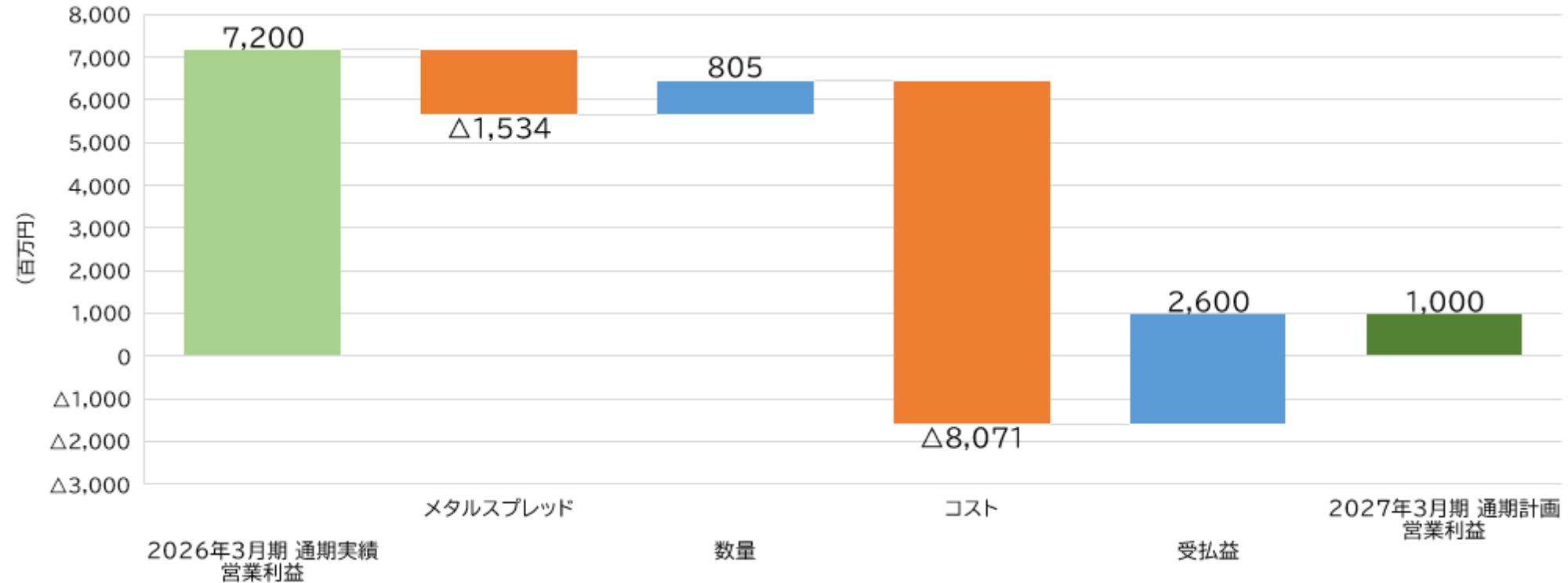


	2027年3月期 上期実績	2027年3月期 下期計画	比較
数量(t)	1,469,000	1,600,000	131,000
売上単価(円/t)	100,400	107,300	6,900
スクラップ単価(円/t)	54,500	54,500	0
スプレッド(円/t)	45,900	52,800	6,900
営業利益(百万円)	△3,550	4,550	8,100

営業利益増減要因

P 14

2026年3月期 通期実績 → 2027年3月期 通期計画

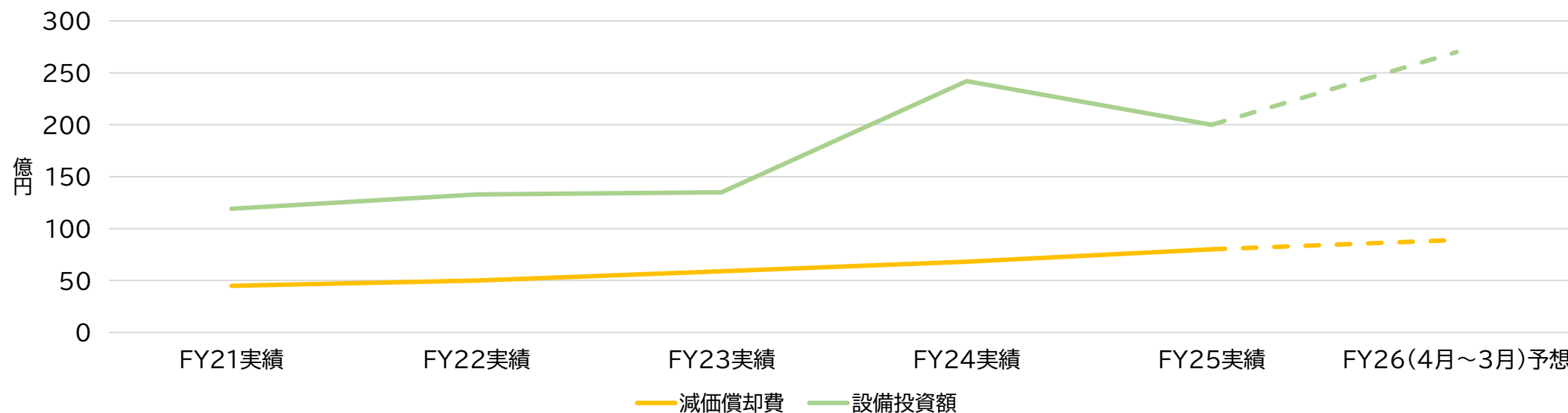


	2026年3月期 通期実績	2027年3月期 通期計画	比較
数量(t)	2,760,000	3,069,000	309,000
売上単価(円/t)	94,300	104,000	9,700
スクラップ単価(円/t)	44,300	54,500	10,200
スプレッド(円/t)	50,000	49,500	△500
営業利益(百万円)	7,200	1,000	△6,200

設備投資額・減価償却費

P 15

設備投資額・減価償却費の推移



年度(FY)	2021実績	2022実績	2023実績	2024実績	2025実績	2026 (4月~9月実績)	2026 (4月~3月予想)
減価償却費(億円)	45	50	59	68	80	43	89
設備投資額(億円)	119	133	135	242	200	76	270

・2027年3月(FY26, 4Q)に100億円程度の岡山冷延投資を計画しています。

3

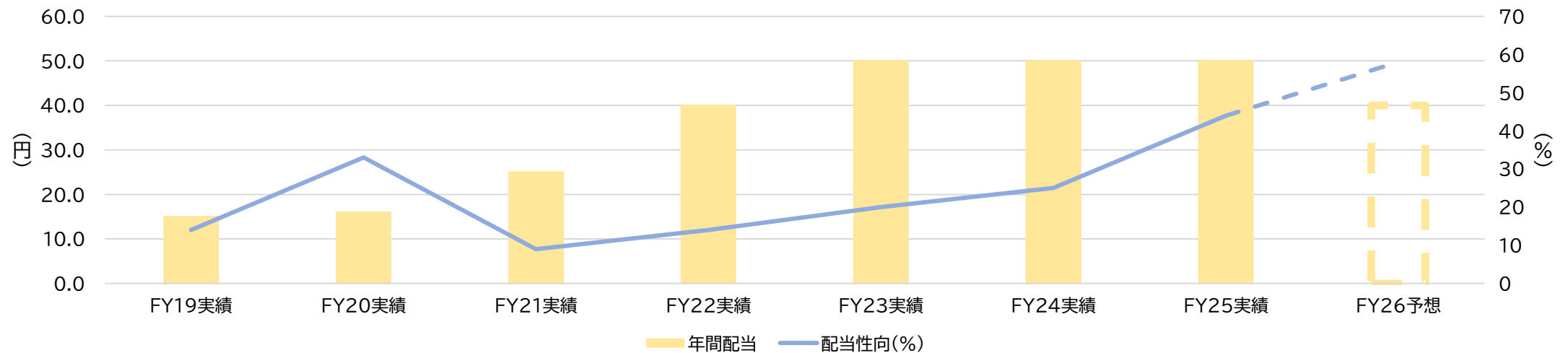
株主還元について

株主還元について

P 17

年度	FY19実績	FY20実績	FY21実績	FY22実績	FY23実績	FY24実績	FY25実績	FY26予想
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
中間配当	7.0	8.0	10.0	20.0	25.0	25.0	25.0	20.0
期末配当	8.0	8.0	15.0	20.0	25.0	25.0	25.0	20.0
年間配当	15.0	16.0	25.0	40.0	50.0	50.0	50.0	40.0
自己株式 買取総額 (百万円)	11,778	1,999	5,710	3,499	3,731	9,999	2,591	-
配当性向(%)	14	33	9	14	20	25	44	58
総還元性向(%)	99	66	27	26	33	72	67	58

配当金および配当性向の推移

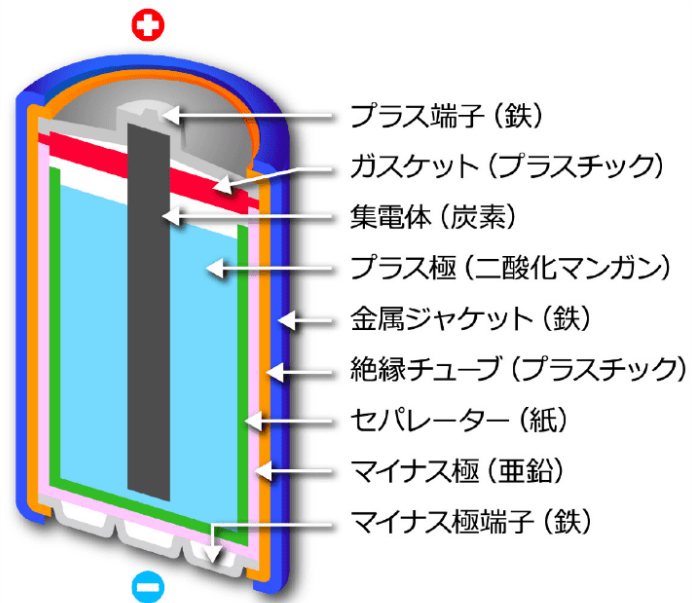


4

参考情報

2026年7月23日公表

当社独自の高度なリサイクルの取り組みを通じて培った世界最高水準の操業技術をフル活用し、電気炉での廃棄物の無害化処理を適切かつ低コストで行うことで、循環型社会の実現へ向けてより一層貢献していきます。



マンガン電池の例

乾電池には『鉄』『マンガン』『亜鉛』『炭素』といった貴重な資源が使われています。毎年一人当たり0.5kgの乾電池が使われ、その多くがリサイクルされることなく、埋立処理をされています。この貴重な資源を製鋼用電気炉を有効に活用することにより、従来行われていた廃乾電池リサイクルより高効率・低コストで新たな製品に生まれ変わらせます。

2026年9月17日公表

東京製鐵が製造する低 CO₂ 鋼材「ほぼゼロ」を母材にした缶バッジパーツ(製造:三幸商事株式会社)が誕生しました。すずメッキ鋼板が、老廃スクラップからアップサイクルして造った鋼板を母材に造られるのは、世界で見ても画期的な取り組みです。

バッジコーイ!! × **ほぼゼロ** ALL FROM SCRAP TOKYO STEEL

未来の素材。

環境配慮型すずメッキ鋼板を使用した
缶バッジパーツを販売開始!

ほぼゼロ缶バッジパーツ

環境に配慮した素材を使用
CO₂排出量の削減に貢献
持続可能な未来の実現へ

ほぼゼロとは?
東京製鐵の低CO₂鋼材ブランドです。

環境に配慮した素材で、
選ばれるバッジへ。

詳しくはこちら

<https://www.tokyosteel.co.jp/hobozero/>

Badge for a better future.

バッジは、もっとやさしくなる。
バッジコーイは持続可能な未来を応援します。

提供:三幸商事株式会社



本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料でなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではなく、本資料に記載された将来の予測等は、説明会の時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、不確定要素を含みます。したがって、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控えくださいますようお願いいたします。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。